



顔をちよっとうつむけて首をすくめ、

まず背広のえりを立ててから、

両手で上着の前をきっちりあわせて、走り出す。

それを見た瞬間、私は、

ああ、あの走り方は知ってる、と思った。

ギリシャだけじゃない、イタリアでもこんなとき、  
男たちはあの格好をして走る。

両手で背広のえりの下を握るかたちになるのだが、  
そのとき左右の親指を垂直に立てるから・・・

死んだ夫が、波止場のカフェの男たちといっしょに、  
アンゲロブロスの映画のなかで

走ってしまってしまったような気がした。

私を置き去りにしたあのときの彼も、

雨のなかを両手できっちり背広の前を閉めて、  
走っていった。

夫が育った街はずれの鉄道員住宅の近所仲間だった  
トーニ・ブシエーマも、上着を押さえて走る部類の  
人だった。二度目で最後に彼を見かけたとき、彼は  
あの格好で、都心の街路をいちもくさんに走った。

こちらがあつと思っ間もなくいちもくさんに  
近くの建物をめがけて走り出した。

さよならともいわずに、

両手で背広の衿もとをしっかりとぎって。

夫といっしょに街を歩いたのも

トーニを見かけたのも、あれが最後だった。